はじめに

いよいよ令和４年度からは小学部、中学部に続いて高等部で新しい学習指導要領が本格的な実施となります。

この新しい学習指導要領の中では、「何ができるようになるか」を重要視し、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を大切な視点として改善・充実が図られています。

育成をめざす３本の柱があり、資質・能力を確実に身に付けるためには、学びの質として「主体的・対話的で深い学び」が重要との認識が示されています。今後はこの学習指導要領を具現化していくことが求められています。

そのため、本校では今年度の研究テーマを「支援学校における児童生徒の主体性を引き出す授業づくり」と定めて日々の実践と研究を進めてきました。

また、令和３年１月には、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」から報告が出されています。その中では、ICT 機器の活用、関連機関との連携とともに特別支援教育にかかわる教員の専門性が重要と示されています。

教員の研修の充実とそれに基づく専門性の向上は大切なことです。我々支援学校の教員は、日々の授業内容を精選し、常に新しい時代に見合った教育内容を創造し、それらを効果的に進めていく力の向上に取り組むことは最も重要なことであると考えます。児童生徒が学校において過ごす大半の時間は授業です。常に児童生徒が自ら進んで取り組み、わかって動ける授業にしていくことをめざして、授業の中身を改善していくことに最も重きを置くべきと考えねばなりません。

生野支援学校では、令和３年度も各学部で、児童生徒の実態を踏まえて、様々な授業の取り組みを進めてきました。今号で取り上げましたのは、小学部の道徳、中学部の美術と高等部の体育の研究授業の報告、全校研修会で発表された美術科からの「コロナ禍における美術の授業実践」、そして防災甲子園に応募した「『いくの防災デー』の実践報告」「食育推進の実践報告」も合わせて掲載させていただき、研究紀要第 50 号「いくの」としてご報告させていただきます。

なお今年度より Web 上にデータを掲載させていただくことになりました。ご覧いただき、ご意見などを頂戴できましたら幸いでございます。

令和４年３月

校長　国津賢三